

はじめに（未来の社会を生きぬく資質・能力を育てるために）

AI, ビッグデータ, IoT等の先端技術が高度化して, あらゆる産業や社会生活に取り入れられ, 社会の在り方そのものが劇的に変化されると言われるSociety 5.0時代の到来に向け, 未来を生きる子供たちにとって, どのような能力が必要か, また, グローバル化の進展の中で, 持続可能な社会を創造し先導するためにどのような人材が必要なのかについて, キャリア教育の視点からの検討が必要となっています。

本県においては, これまでもキャリア教育の推進に向け様々な施策を実施してきました。特に, 平成26年3月には, 「徳島県キャリア教育推進指針」を策定し, 徳島県が目指すキャリア教育を示し, 経済団体・企業, 大学, 自治体等の協力を得て, 幼・小・中・高等学校の各発達段階に応じ, 系統的・体系的にキャリア教育を推進してきました。

また, 平成27年12月に「とくしまの未来を切り拓く, 夢あふれる『人財』の育成」を基本方針とした「徳島教育大綱」を策定し, 教育, 学術, 文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策について, その目標や施策の根本となる方針を定めています。「地方創生から日本創成へ! 『徳島ならではの』の教育の推進」を重点項目とし, その中で, 個性, 可能性を最大限に伸ばす教育の推進のため, 次代を生きぬくキャリア教育の推進を掲げ, 「人財」の具体像を示しています。

更に, 平成30年3月には, 「徳島教育大綱」の行動計画にあたる「徳島教育振興計画(第3期)」を, 平成30(2018)年度から平成34(2022)年度までの5年間で計画期間として策定し, キャリア教育については重点項目I「地方創生から日本創成へ! 『徳島ならではの』の教育の推進」の推進項目①「個性, 可能性を最大限に伸ばす教育の推進」の中で, 施策の方向性として「次代を生きぬくキャリア教育の推進」として整理しました。

その中で, 予測困難な時代を主体的に考え, 生きぬく力を育成するとともに, 一人一人の社会的・職業的自立に向けた能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため, 幅広い分野を対象に小学校での職場見学や中学校の職業体験, 高校におけるインターンシップなど発達段階に応じたキャリア教育を推進し, 社会に貢献する「人財」の育成を図ることや, 変化の激しい社会に対応するため, 新学習指導要領の趣旨を踏まえ「徳島県キャリア教育推進指針」の改定を進めるとともに, 学校・家庭・地域に周知を図り, より一層充実した取組を推進すること等を定めています。

そこで, 県内の取組について成果と課題を分析し, 今一度, キャリア教育の本質に立ち返り, その意味や目標について丁寧に理解した上で, 徳島県におけるキャリア教育を更に推進していく必要から, 今回, 今後5年間の方向性を示す新たな指針「徳島県キャリア教育推進指針II『とくしまの未来を切り拓くキャリア教育』」を策定します。

キャリア とは

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく重なりや積み重ね のこと。

(中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」H23による)

キャリア教育 とは

社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度※を育てることを通して、キャリア発達を促す教育 のこと。

(中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」H23による)

※中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、キャリア教育において育成する力を「能力・態度」と示していたが、新学習指導要領では、総則編において、「資質・能力」として整理されたことから、今後、キャリア教育において育成を目指す力については「資質・能力」と表現する。

【留意事項】

・進路指導との違い

進路指導とは、生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験及び相談を通じて、生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、就職又は進学をして、更にその後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、どのような人間になり、どう生きていくことが望ましいのかといった長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動のことである。

そのねらいはキャリア教育とほぼ同じであるものの、実際の進路指導においては、子供たちの意識の変容や資質・能力の育成に結び付いていないとの指摘もある。

・職業教育との違い

職業教育とは、一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育のことであり、具体の職業に関する教育を通して行われる。

キャリア教育は、普通教育、専門教育を問わず様々な教育活動の中で実施されるものであり、職業教育も含んでいる。

(中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」H23及び「高等学校キャリア教育の手引き」H23による)

キャリア発達 とは

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程 のこと。

(中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」H23による)

I これまでの取組

1 徳島県キャリア教育推進指針の概要

平成26年3月に策定した「徳島県キャリア教育推進指針（以下、「指針」という。）」では、徳島県におけるキャリア教育の課題を、

- 課題1 子供たちの働くことへの意欲は高いが、職業に対する理解が不十分である
- 課題2 子供たちに将来の夢や目標に向かって努力する気持ちや課題に対してたくましく対応しようとする意識が低い
- 課題3 子供たちの地域や社会の出来事への関心や自己肯定感が低い
- 課題4 学校におけるキャリア教育を推進するための組織体制が整っていない
- 課題5 体験的な学習活動を実施するための受入先の確保が必要である
- 課題6 徳島県における新規高等学校卒業就職者の卒業後3年以内の離職率は全国水準を上回っている

の6項目に整理し、徳島県が目指すキャリア教育を次のとおり示しました。

夢や希望に向かってチャレンジし、社会の一員として、ともに支え合い、ふるさと徳島に愛着と誇りを持つ人を育むとともに、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力・態度を培うことを通して、キャリア発達を促す教育

また、指針の中では、徳島県におけるキャリア教育で主に身に付けさせたい能力・態度として、平成23年1月31日、中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（以下、「答申」という。）で示されている「基礎的・汎用的能力」を踏まえ、次のとおり示しました。

- ・【人間関係形成・社会形成能力】としての「かかわる力」
- ・【自己理解・自己管理能力】としての「みつめる力」
- ・【課題対応能力】としての「すすむ力」
- ・【キャリアプランニング能力】としての「えがく力」

指針では、これら「かかわる力」「みつめる力」「すすむ力」「えがく力」の育成を推進するため、変化の激しい社会で必要とされる情報活用能力育成の重要性についても示し、**課題4**が示す、校内体制の整備や各学校における育成すべき資質・能力を踏まえたキャリア教育全体計画の作成を推進してきました。

ほかにも、キャリア教育推進のため、幼・小・中・高の学校間連携（縦の連携）及び学校・地域間連携（横の連携）や体験的活動の充実の必要性について示していますが、これらは課題1～6全てに関わるものです。

この指針に基づき、各学校、市町村教育委員会及び徳島県教育委員会では、それぞれ、地域の特色、生徒の実態等に基づき多様なキャリア教育を推進してきました。

2 学校におけるキャリア教育全体計画等について

課題4

指針を踏まえ、徳島県内の全ての公立小・中・高等学校及び特別支援学校では、学校として育成を目指す能力・態度（基礎的・汎用的能力）を示した「キャリア教育全体計画」を作成しています。

この全体計画の中では、R-PDCAサイクルのもと、「目の前のこの子たち」にとって必要な資質・能力を明確にしつつ、教育活動全体を通してキャリア教育の取組を実践することとしています。

特に、小・中学校では、分散型小中一貫教育である「チェーンスクール」や一体型小中一貫教育である「パッケージスクール」など徳島ならではの小中一貫教育や、「コミュニティ・スクール」に取り組む中で、地域と連携し、小中が一体となった全体計画を作成している例が見られます。

また、高等学校等では、学校評議員から全ての学校で進路指導を含むキャリア教育に関して、意見を聴取しており、社会との接続を意識した全体計画を作成しています。

《主な例》

- ◇キャリア教育に関わる各学年の指導内容を、月ごと、学年ごとに明記し、教科・領域における系統的な指導を工夫している。（小学校）
- ◇特別支援学級において、キャリア教育全体計画に基づいた「キャリア教育年間指導計画」を作成し、1年間を3期に分け、基礎的・汎用的な資質能力の育成に向け、4つの観点（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）から、育成を目指す資質・能力をそれぞれ明記し、指導を行っている。（小学校）
- ◇キャリア教育全体計画の中に、各教科・領域におけるキャリア教育に関わる教育活動を明記して、基礎的・汎用的な資質・能力の育成に向けて、つながりを意識した指導を行っている。（小学校）

- ◇小中9年間で3つに分け、小学校1年生から小学校4年生までを「基礎的・基本的な知識・技能育成期」、小学校5年生から中学校1年生までを「社会的・職業的自立の基盤形成期」、中学校2年生から中学校3年生までを「現実的探索と肯定的選択期」として、育成を目指す基礎的・汎用的な資質・能力の視点でつなぎ、継続した指導を行っている。
(小・中学校)
- ◇キャリア教育で育成すべき資質・能力を学年ごとに、4つの観点(かかわる力・みつめる力・すすむ力・えがく力)から、具体的に明記することにより、各学年終了時の生徒の姿を、教職員が共有してキャリア教育を実践できるようにしている。
(中学校)
- ◇キャリア教育における町(小学校4校、中学校2校)の目標を「未来を創造し、たくましく生きる子ども育成」とし、地域総がかりで、子供の育成を進めている。また、各中学校区でキャリア教育全体計画を作成し、育成すべき資質・能力、各教科・領域における指導内容について明記して、9年間を見据えた取組を行っている。
(市町村)
- ◇「学問」「職業」分野における地域を支えるリーダーや、国内外で広く活躍できる人材を育成することを目指し、各学年において、主に育成を目指す基礎的・汎用的能力を示している(1学年:「みつめる力」、2学年:「かかわる力」「すすむ力」、3学年:「えがく力」)。
(高等学校)
- ◇専門高校を「社会に最も近い学校」として位置付け、その上で社会の一員として育成を目指す資質・能力を示し、体験的な学習活動等を充実し、将来の職業を意識し「みつめる力」の育成に取り組んでいる。
(高等学校)
- ◇各学部それぞれの生活年齢に応じたキャリア教育の充実を図り、社会の中で自己の思いや考えを人に分かりやすく伝える力を育成し、役割を果たすことから生きる力を育て、自立と社会参加を目指している。身に付けたい能力・態度に対応する卒業後の姿をイメージした上で、各学部段階で育てたい力を定義し、系統的に指導している。
(特別支援学校)

3 キャリア教育充実のための様々な取組について

課題1～6

徳島県教育委員会では、指針において指摘された課題の解決を図り、各学校におけるキャリア教育の充実を図るため、様々な取組を実施しています。

取組の概要は次のとおりです。

《概要》

◇各学校が地域の企業等の情報を収集し、職場体験・インターンシップ等の受入先を多様な職種に拡大することで、児童生徒が多様なキャリアパスを認識できるよう「あわ教育サポーター企業等データベースシステム」を平成26年3月に構築しました。

(<http://www.career-db.tokushima-ec.ed.jp>)

平成30年10月現在、162事業所が登録されています。

◇学校・企業等、双方にとって意義のある職場体験・インターンシップ等とするためには、各学校と企業等の連携・相互理解をスムーズに行う必要があります、『「職場体験・インターンシップ」実施の手引】学校編】及び【企業編】を平成28年3月に作成し、各学校及び経済団体・企業等へ配布を行いました。

(<http://www.pref.tokushima.lg.jp/ippanokata/kyoiku/gakkokyoiku/2016040300015>)



中学生の職場体験の様子

◇各学校におけるキャリア教育を支援するため、経済団体・企業等と連携した「講演・出前授業」を実施しました。

平成30年度 実績 小・中・高等学校・特別支援学校 計57校

ほかにも、企業団体・自治体等が実施する出前講座等も広報し、各学校におけるキャリア教育の充実を支援しています。



小学生・保護者対象バスツアーの様子



小学校でのものづくり出前講座の様子

◇徳島の「良さ」「強み」を体感し、職業に対する理解を推進する、企業見学バスツアーを発達段階に合わせて実施しています。小学生対象では、保護者とともに身近な企業を見学することで家庭での職業理解の推進を図り、高校生対象では、新規高等学校卒業就職だけでなく、大学卒業後の就職も見据えた企業も訪問先に加えることで、幅広い高校生の参加を促しました。

平成30年度 実績

小学生・保護者対象企業見学バスツアー

徳島ビジネスチャレンジメッセ見学バスツアー（小学校・中学校対象）

高校生対象企業見学バスツアー

また、高等学校では、進学希望者に対して次の学校段階への進学のみを見据えた進路指導にとどまらず、社会との接続を踏まえた地域理解を推進するため、企業見学バスツアーを全ての公立高等学校の教員を対象に平成26年度から実施しています。

◇多様なキャリアパスの普及として、高等学校では大学生や若手職業人等によるキャリアガイダンス、専門学科高校生に対する大学との接続を意識した講座等を実施しています。また、高等学校専門学科への中学校段階までの理解を促すため、説明会等の開催や専門学科の学習内容について紹介する冊子配布等の広報活動を実施しています。また、高等学校専門学科は、大学・企業等と連携して「ものづくり」を推進し、確かな技術力を高めるとともに、その成果を小・中学校や地域等に発信しています。

平成30年度 実績 高等学校産業教育展の開催

高等学校専門学科・総合学科合同説明会の開催 等



専門学科・総合学科パネル展の様子



高校生産業教育展の様子

◇変化の激しい時代に対応できるように必要となる「起業家精神（チャレンジ精神，創造性，探究心等）」、「起業家的資質・能力（情報収集・分析力，判断力，実行力，リーダーシップ，コミュニケーション力等）」を育成するため，地元商工会議所等と連携した空き店舗活用や地域創造につながる施策提言を行う研究校を指定し，この成果をキャリア教育推進フォーラム等で普及しています。

I これまでの取組

平成30年度 実績 小学校1校 中学校1校 高等学校2校



中学生のワークショップの様子



高校生のフィールドワークの様子

◇特別支援学校においては、一人一人の社会的・職業的自立を目指し、幼稚部から高等部まで切れ目ないキャリア教育を推進しています。

幼稚部では、人とや社会と「かかわる力」の基盤形成を図るため、幼児の主体的な活動を促し、日常生活に必要な言葉の獲得、望ましい習慣や態度の形成に取り組んでいます。

小学部では、「働くこと」の意義や自己の生き方について考えを深めるため、学校生活での掃除等の身のまわりの仕事を行ったり、職場見学等の地域と関わる活動に取り組んだりしています。

中学部では、社会における自らの役割や将来の生き方・働き方について考えるとともに、現実の社会を学ぶため、校内での「作業学習」や職場体験等の体験的な学習活動を行っています。

高等部では、社会・職業への現実的理解を深めるため、就業体験等を実施するとともに、将来に向けての目標を設定し、職業技能を身に付けるための活動に取り組んでいます。

平成29年度 実績 「とくしま特別支援学校技能検定」の実施 5分野10種目



技能検定【流通】



技能検定【ビルメンテナンス】